

来年度以降の当塾の体制（3）

2度にわたりセミナー通信で来年度からの当塾の変更点をお伝えしてまいりましたが、今月で最後となります。今月は理科、社会、国語の指導について書かせていただきます。

現在塾では、中3は英数に重きをおいていますがほぼ5教科まんべんなく指導し、中1、中2は1ヶ月のほとんどを英数指導にあて、月に2回程度理科、社会、国語の指導に時間をとっている状態です。月に2回程度ですので、指導できる内容も限られています。これまでは自習用のワークを各自が家又は塾で進めていき、授業時間には私がフリーで質問を受けてそれに答え、それぞれが自分のペースで確認テストを受けていくという形をとっていました。これにはいくつかの良い点がありました。まず、受け身ではなく自ら勉強を進めていくという自立勉強の練習になりました。次に、かなり詳しい理科のワークをやっていくことで理科の実力がアップしました。さらに、それに伴って説明文の（理科ですが）読解の練習もできました。

一方で、せっかく時間をとったにもかかわらず効果がもう一步だったものもありました。社会の確認テストでは、用語そのものを一問一答式で書けるまでにはなりましたが、残念ながらその用語の持つ意味や、用語同士のつながりまで理解していた塾生は一部でした。多くの塾生は用語の暗記のみに終わってしまい、テストから数日経つときれいさっぱり忘れるという有様でした。「歴史は流れを考えて、自分で語れるようになりなさい。」と何度アドバイスをしても、やりませんでした。やれなかった、というのが正しいのかもしれませんが。“自分で語れる”ようになるためには、教科書に書いてある内容を要約する力が必要だったのです。つまりは国語力です。この国語力が足りないために教科書に書いてある内容が頭の中で整理できず、理解出来なかったのだと思われます。ただ、これは社会だけに限らず全ての教科に言えることです。

以上のことから、来年度以降は国語の指導に今まで以上に力を入れていく予定にしています。理科のワークを使用して理科の力と自立勉強の力を鍛えることは引き続き行いますが、それと同じ時間を国語にとります。具体的な指導内容は、教科書準拠ワークやプリントを使用している読解指導（現代文、古文）、要約指導、「お話し」の記憶を使った聞き取り指導、などです。月に2回ですので十分な時間とは言えませんが、密度の濃いものにしたいと思います。英数と同じく対話形式で、どんどん指名しながら進めます。歴史の教科書の要約にも挑戦させたいですね。国語の実力アップには大変な時間がかかります。やり始めてすぐに効果が出てくるというものではありませんが、絶対に必要な力ですのであきらめず地道に続けていきたいと思っています。